

第1回島田市総合計画審議会 会議要録

1 日時

平成28年2月9日（火）19:00～21:00

2 場所

島田市役所 4F 第三委員会室（南・北）

3 出席者

委員：石間委員、大石委員、小倉委員、掛澤委員、五條委員、佐久間委員、白瀧委員、杉本委員、鈴木委員、園部委員、谷委員、名取委員、根本委員、村田委員（五十音順）

市側：染谷市長、高木副市長

事務局：牛尾市長戦略部長、三浦秘書政策課長、駒形係長、鈴木、福山

※傍聴者なし

4 内容

（開会～委嘱状交付）

会議に先立ち、染谷市長から出席委員に対し、審議会委員の委嘱状を交付。

（委員紹介）

進行役の駒形係長より、委員の紹介。

（会長・副会長選出）

委員互選による会長・副会長の選出。

委員より、根本委員を会長に、小倉委員を副会長にとの声あり。

異議なく満場一致により根本敏行氏を会長に、小倉一洋氏を副会長に選出。

⇒それぞれ会長席、副会長席に移動

（市長諮問）

染谷市長から審議会に、

○第二次島田市総合計画基本構想の策定に関する事

○第二次島田市総合計画基本構想に基づく基本計画の策定に関する事

に対して意見を求めることについて諮問。

染谷市長が諮問書を読み上げ、根本会長に手渡し。

(染谷市長あいさつ)

- ・ これからの時代、島田市がどう生き抜いていくのかという問題に対し、昨年、「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したところ。
- ・ 本日、一冊の本を持参した。名誉市民である森昌也氏の本。この本が書かれてわずか30年であるが、森氏の生きた時代と現代では社会情勢が大きく異なり、真逆とっていい状況。
- ・ 少子高齢化は一層進み、人口は減る。働き方、暮らし方といった根本的な、日本人の生き方そのものが変わっていかないと子どもは増えないのではないか。
- ・ こうした時代、平成30年から8年間の島田市の設計図となる総合計画を策定していく。今後は、これまでの価値観が通用しない社会となっていく。
- ・ 行政の仕事が(民間を)管理することだった時代から、民間の動きを支援する時代へ変化したと感じている。
- ・ 形骸化した計画にならぬよう、市民との合意形成を図り、共に創るのが大事。
- ・ 総合計画は、以前は10年という計画期間であったが、この時代に10年先を見通すことが困難であること、また、市長の任期と合わせることを考慮し8年としている。
- ・ 今回、素晴らしい方たちに委員として参加いただいた。ぜひよろしくお願ひしたい。

(根本会長あいさつ)

- ・ 大事な会議の会長を仰せつかり、光栄である。
- ・ 皆さんはお互いに見知った方たちかと思うが、自分は学識経験者として参加させていただいており、ご紹介いただいたように他市町等で同様の会議に参加した経験もある。
- ・ しかし自分はここで生まれ育ったわけではなく、地域のことは皆さんの方がよくご存知のはずである。自分としては建設的な議論が進んでいくよう努めていくので、皆さんの協力を切にお願いしたい。
- ・ 自分の専門は都市計画である。会長を仰せつかっているが、1人の研究者として皆さんと一緒にやっていけたら。
- ・ 審議会はできるだけ発言しやすい雰囲気づくりをしたい。

(事務局自己紹介)

高木副市長、牛尾市長戦略部長、三浦秘書政策課長、駒形係長、鈴木、福山

(議題)

(1)島田市総合計画審議会の役割について(基本的な方向性の確認)

資料5に基づき、三浦秘書政策課長より説明。

【質疑応答】

副会長：基本的な質問で恐縮だが、平成28年度、1年をかけて策定委員会なりが基

本構想の原案を策定していくということだと思うが、その間、我々審議会も基本構想に対し思いや意見、要望を述べてもいいのか、立ち位置を教えてほしい。

駒形係長：平成 28 年 6 月から審議会を順次開催していく予定であるが、基本構想の策定にあたっては、様々な要因（社会要因）等を噛み砕き、織り込んでいかなければならないので、こちらで事前に調査したものを丁寧にお示ししながら、土台部分から皆さんと一緒に作り上げていきたい考えである。

副会長：6 月に向け、我々としては、現計画の基本理念や将来像を読み込み、次計画に対する自分なりの意見などを持って臨むということによろしいか。

駒形係長：その通り。現計画の基本構想と基本計画は 1 年で策定したが、市長からも話のあった通り、総合計画は、時間をかけて、市民の皆さんの声を聞きながら、一緒に作っていきたいと考えている。

会長：座長の考えとして、このテーブルを「意見を言って終わり」というものにはしたくない。積極的に発議提案ができるテーブルとして運営していきたい。我々は先ほど市長さんから委嘱を受けた委員であるが、別に選挙で選ばれた委員ではない。我々の発言がそのまま全て通るわけではない。だが、我々の発言の重みは市長さんが受け止めてくれる。

事務局が用意した原案に対してだけ意見を述べるのではなく、委員の皆さんから自発的に提案などをしてほしい。

大きな制度変更として、これまで総合計画は「義務」であったが、地方自治法の改正により「義務」ではなくなった。「必要がある自治体は作りなさい」というスタンス。逆に言えば作らなくてもよいということ。

これを敢えて作ることは大きな意味がある。島田市がこれからどう戦略的に動いていくのかという重要な会議に我々は参加している。

以前、「義務」であった頃の総合計画は、個別の事業計画が国によって立てられ、これを集めて市の総合計画とするようなイメージだった。自治体の裁量が半分以下（一概に是非は言えない）。それが、改正により自治体側の裁量で戦略的に進めることになったわけである。

牛尾部長：資料 4 をご覧いただくとわかるが、これが島田市として総合計画を作るという方針を示すものであり、この中の第 7 条にある通り、総合計画が市の諸施策の基本となることを示すものである。

会長：全体的な話として、この会のスタンスだが、1 回の会議で議論したことを決定として振り返らないのではなく、機能的に振り返るなど、柔軟な対応をしていただけるよう事務局にお願いしたい。

染谷市長：前回の総合計画策定時と違い、国が様々なビッグデータを有しており、島田市のポジションなどもこれらのデータから読み取れる。わが街がどんな街な

のか、委員の皆さんが客観的に島田市を見る機会を用意するのもよろしいかと思う。

(2)島田市を取り巻く状況と今後の方向性について（主要課題について）

当日配布資料「島田市の概要」スライドを使い、三浦秘書政策課長より説明。

会長：島田市の概要をお聞きいただいた。今説明のあったこと、それから染谷市長から市政に係る補足などあればそれを伺い、議題(3)の意見交換に進みたい。

(3)市長と審議会委員との意見交換

染谷市長：現在、市内68の自治会を回り、「車座トーク」という座談会を行っている。

市政について私の思いや考えをお伝えし、それに対して地域の皆さんからご意見、ご質問をいただくもので、その中で、私は自分の政治姿勢として「市民と共に」という理念のもと、対話を重視してきたこと、透明性のある市政運営を心掛けてきたことなどを伝えている。

また、かつてと違い、島田市単独では解決できない課題も多いことから、広域行政による課題への取り組みの必要性を話している。その枠組は様々であるが、連携中枢都市圏という制度が示す具体的なビジョンをもった連携が必要である。

次に、財政の健全化についても話しており、例えば市の一般会計において扶助費は膨らみ続けている。少子高齢化が進み、こうした目には見えにくい経費の増は避けられないが、そんな中でどうやって目に見える施策を展開していくか、そうした市の将来に夢を描く部分を皆さんと一緒に考えていきたい。私自身は、政治の役割は、弱者を含む誰もが安心して暮らせる街を創ることだと思っている。一方で財源を稼ぐという仕組みを作らなければ、若者に雇用機会を与えることができない。若者の中にも、公共施策的な社会活動に関心を持つ層がある。そうした若者としてしっかり繋がり、島田の未来を考えていきたい。

「車座トーク」では、こうした話を最初に伝え、その後個別事業について意見を交わすのだが、どうしても各地域の課題に話題が集中する。

それぞれの地域で暮らし、地域と密着している方々に対し、どうしたら市全体に目を向けてもらえるのか。限られた財源の中で何をしていくべきかという議論が必要である。

補助金などによる支援も、常に補助金ありきでは前には進まない。あくまで初動を補助、支援する考えである。

取り留めのない話になったが、変化する時代の中で、皆さんがどんな価値観を持って島田市で暮らしているのかも踏まえ、意見交換させていただければ

と思う。

- A 委員：自分は県外出身で、海外での生活を経て島田市に移り住んだ。
2010年に日本に戻った際、お年寄りが多く子どもが少ないということに大きな危機感を持った。
これをきっかけに様々な活動に参加し、色々な街を見る機会もあった。
いつも思うのは、それぞれの街には風土があるということ。
島田の将来をより良く描くのであれば、“ここで暮らす人々の意見を尊重する”という風土が大切だと思う。自分の意見が反映されている、自分も参加しているという実感が得られるように。
島田市が、自分の人生設計（ライフプラン）が見える街になればと思う。
そのためには島田市の現状（資源、資産、人）を知ることが大事。これは実現可能性を高めるためにも必要。
一つ提案があり、今後、この会議で総合計画の議論を行う際、各委員の皆さん、ご自分の年表を手元に置かれ、ご自分の年齢推移と照らしながら議論されてはいかがか。
- 副会長：現計画（後期基本計画）は、市長、行政主導で策定し、市民にお示ししているものかと思うが、どの程度達成されているのか。
- 三浦課長：現計画においては「めざそう値」という達成目標を掲げ、これを基に進捗管理を行っている。
- 染谷市長：また毎年、予算編成の指針となる実施計画を立てており、この策定にあっても総合計画が基本となっている。
- 副会長：市長は市民一人ひとりの声を聞きながら、更に財政面を考慮しながら施策を進めなくてはならない。そうした時、この総合計画がきちんと民意を反映した形で策定され、これに基づき着実に施策展開していることを市民の皆さんに示せれば、理解も得られるのではないかと思う。
- B 委員：「車座トーク」大変ありがたいと思う。
地域に入れば地域の課題がある。これは仕方が無いことと思う。
その中で今、地域おこし協力隊の活躍が全国的に取り沙汰されていて、これが地域活性化のキーポイントになるのではと感じている。
市全体の活性化も勿論大切だが、地域にも目を向けなくてはならない。
例えばコミュニティバスも、交通手段としてだけでなく、高齢化社会における福祉施策と考えれば別な意味を持つ。地域の持つ細かな課題をそうした大きな視点で拾い上げてあげられれば市民も喜ぶ。
- 会長：時間の都合もあり全員の意見は聞けないが、この場で発言できなかった委員も、何か意見などがあれば後からでも事務局にお伝えいただくように、事務局も受けていただき、次回にでも共有いただけるようお願いしたい。

- C 委員：茶業を自園自製で営んでいる。行政でも、緑茶化計画に見られるように茶業を基幹産業として取り扱っていただき有難いと感じている。
- ただ、茶業と一言と言ってもそこには生産者や製造者、販売者などがあり、茶業振興においてどこに注力するのかという問題はある。
- どうしてもこうした計画は万人受けする内容となり、また、目指す将来は発展的なものになるが、現場の事情は簡単ではない。計画書が見据える将来像に向かうためには現場の「人」の力も大事だと思う。
- D 委員：自分はずっと島田市民である。現計画の後ろの方に、市民アンケート結果が掲載されており、その中に「島田の住み心地は？」という項目がある。
- 自分は島田で育った人間であり意識したことがなかったが、改めて島田のいい所、住みやすいと思う部分を考えさせられた。
- 自分のような意識の市民も多いのでは？即ち、「住むのなら島田でいい」という意識。これを「住むのなら島田がいい」に変えていけたら。
- 島田の現状をしっかりと理解して、今暮らす市民がそんな風に意識を持ってくれたら街が元気になるのではと思う。
- B 委員：この会の委員の皆さん、半数程は市外出身者では？
- むしろ良いことと思う。ぜひ他所からの視点、客観的な視点で積極的に提案いただきたい。
- 会 長：これまでの計画は、増える人口に合わせてインフラを適正に整備するための計画であった。計画がなかったらサイズ違いの服を着るハメになるから。
- 今、国が計画不要としたのは人口が増えなくなったから。それでも計画を作ろうというのは重要なこと。「人口が増えなくて残念」ではなく、違う状態へ移行しようとする計画を作るため、市外出身者にも積極的に発言いただきたい。以上で意見交換を閉じ、事務局から（その他）として連絡事項を。

（その他）

三浦秘書政策課長より、次回審議会について案内（具体的な日程は未定）。

20:45 会議終了